太平洋サケ資源回復調査事業（拡充）

１　趣　旨

近年、我が国のサケ資源は減少傾向にあるが、これは太平洋側における極端な回帰率の低下によるところが大きい。平成23年度及び24年度の来遊量はオホーツク海や日本海側の地域ではほぼ平年並であったのに対し、北海道の太平洋側では平年の約５割、本州の太平洋側では約４割となっている。このため、太平洋側のサケ資源の来遊量減少の原因を究明し、資源の回復を図ることが急務となっている。

よって、来遊数が減少している太平洋側サケについて、降海後の稚魚の動態調査などを実施し、減少要因を明らかにした上で、ふ化放流手法の改良を通じたサケ資源の回復を図る。

２　事業内容

（１）サケ稚魚動態調査（動態調査）

沿岸域から沖合域において、サケ稚魚を採集、分析し、移動実態や成長履歴を把握する。

（２）ふ化放流事業高度化試験（標識放流）

放流の時期やサイズを変えて標識放流し、効果的な放流適期・適サイズを検討する。

（３）サケ稚魚被食実態調査（被食実態調査）

沿岸定置に入網するサケ稚魚を捕食していると考えられる魚種の胃内容物調査を実施する。

３　委託先

民間団体等

４　事業実施期間

平成２５年度～平成２７年度

５　平成２６年度概算決定額（前年度予算額）

８０，０００千円（５０，０００千円）

６　補助率等

委託費

７　担当課

水産庁栽培養殖課　０３－３５０２－８４８９（直）

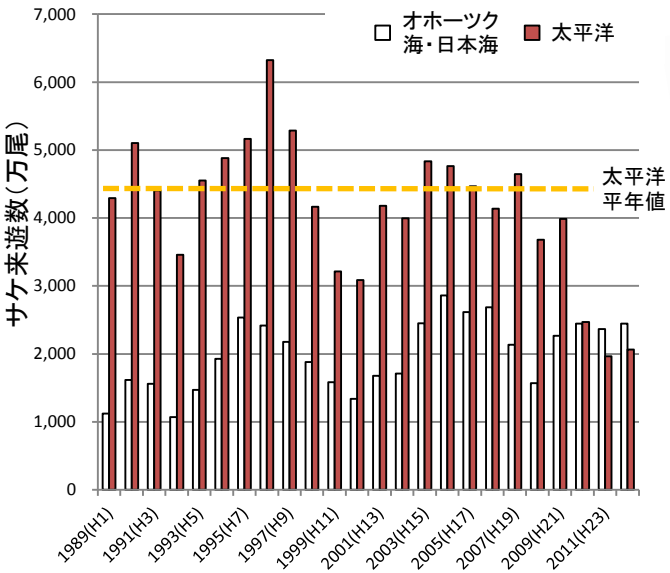
太平洋サケ資源回復調査事業

平成26年度概算決定額：80百万円（50百万円）

来遊数が減少している太平洋側サケについて、降海後の稚魚の動態調査などを実施し、減少要因を明らかにした上で、ふ化放流手法の改良を通じたサケ資源の回復を図る。

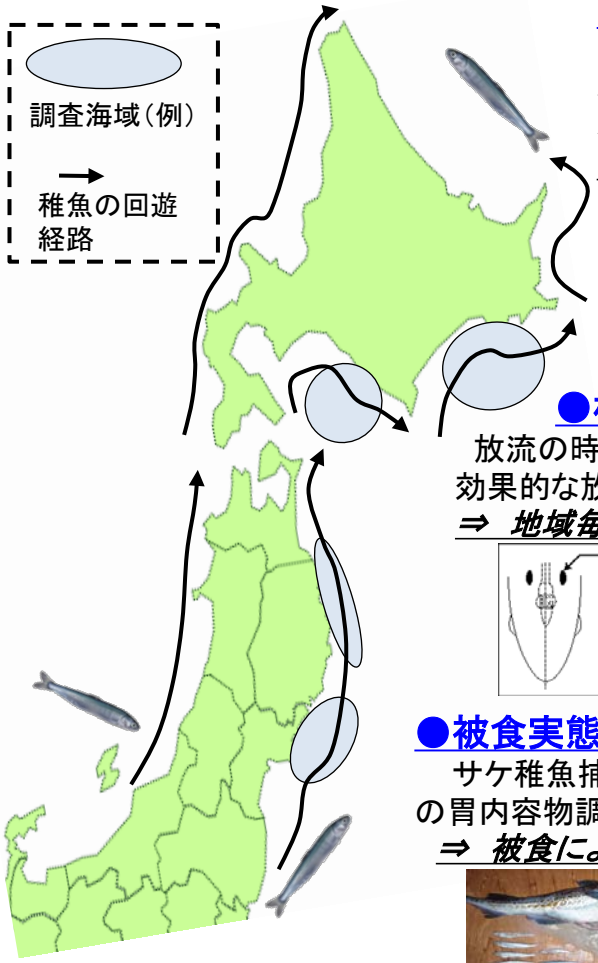
背　景

太平洋側のサケ来遊数が減少



減少要因の把握及びふ化放流手法の改良を通じたサケ資源の回復が急務

太平洋側で集中的な調査・研究を実施



●動態調査

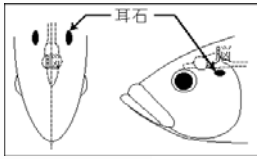
沿岸域・沖合域においてサケ稚魚を採集、分析（鱗・耳石）し、移動実態や成長履歴を把握

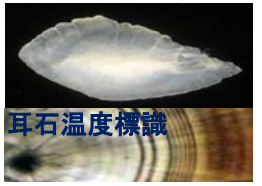
⇒ *減少の主たる要因を推定*

●標識放流

放流の時期やサイズを変えて標識放流し、効果的な放流適期・適サイズを検討

⇒ *地域毎の環境に適した放流手法の開発*





●被食実態調査

サケ稚魚捕食魚種（スケトウダラ、ホッケ等）の胃内容物調査を実施

⇒ *被食による減少の軽減対策検討に活用*

資源回復に効果的な放流適期、適サイズの稚魚の放流を推進